

〔第31回学術集会 教育講演1〕

プライマリ・ケアにおける家族支援 ～巣立ちから看取りまで、ライフサイクルに沿って～

三重大学医学部名張地域医療学講座

若林 英樹

高齢化が加速する今日の医療ニーズの変化に伴い、プライマリ・ケアが求められている。プライマリ・ケアとは、患者の抱える健康問題の大部分に対処でき、継続的なパートナーシップを築き、家族及び地域という枠組みの中で責任を持って診療する臨床医によって提供される、総合性と近接性を特徴とするヘルスケアサービスである（米国科学アカデミー、1996）。

本講演ではプライマリ・ケアの中で特に、総合診療・家庭医療における「家族志向のケア」に焦点を置いた。それは、家族の文脈で問題をとらえ、患者の支援システムを動員して、患者の健康と幸福感を強める。その基本原則として、家族システム論、バイオサイコソーシャルモデル、家族ライフサイクルを概説した。また、介入法のモデルとして5段階のラダー（若林ら、2024）、すなわち、①医師主導で情報を扱う、②双方向性に情報を扱う、③感情を扱う、④家族関係を扱う、⑤困難事例を扱う、を紹介した。

支援の事例として、ライフサイクルの大きな変化に伴ってうつ状態となった婦人のケースと、認知症のある高齢の母親に無理なりハビリをさせる息子のケースを挙げ、前述の理論やスキルの応用を示した。これからのプライマリ・ケアにおいて、医師、看護師、臨床心理士等の協働チームを形成し、より

質の高い家族支援ができる可能性がある。そのような協働が発展することを願っている。

【略歴】

1995年 徳島大学医学部医学科卒

1996～1997年 淀川キリスト教病院初期研修

1997～2001年 徳島大学大学院医学系研究科博士課程 その傍ら非常勤で地域医療を実践

2001～2005年 名古屋大学総合診療科医員 複雑な症例で家族の重要性を実感

2005～2008年 米国サンディエゴ大学大学院修士課程、UCSD家庭医療学にて家族療法を修練

2008年～2012年 岐阜大学医学教育開発研究センター助教 医学教育を体当たりで実践

2012～2014年 総合在宅医療クリニック 家族支援の経験を積む

2014年より三重大学地域医療学講座講師、2019年より三重大学医学部亀山地域医療学講座教授、2023年より現職

プライマリ・ケアの将来を描いて、特に家族システムと医学教育に注力

博士（医学）、米国家族療法修士

日本プライマリ・ケア連合学会認定医/指導医

日本家族療法学会認定スーパーヴァイザー